

陳 述 書

2016年7月1日

佐賀地方裁判所御中

住所 熊本市
氏名 勝連裕子

私は勝連裕子と申します。熊本生まれで、今も熊本市に住む57歳の主婦です。
この度の熊本地震を経験した一人として、陳述させていただきます。

1. この度私たちが経験した熊本地震は、突然でした。ドンと突き上げるような衝撃の後、今まで経験した事のない長く激しい揺れに襲われました。

4月14日(木)21時26分震度7(M6.5)。この時は、我が家は大きな揺れのわりには停電もせず、家具が倒れる事もなく日常を続ける事ができました。金曜の夕方には街中の様子も知りたくて“金官”行動に出掛けました。いつもは大声で原発はいらない!とか戦争法廃止等の主張をするのですが、この時はパネルを持ってアーケードを静かに往復しました。

いつもと違い、人出もまばらで、あちこちに立ち入り禁止の標が施され、建物にダメージが散見されました。まさか熊本で…夢であってほしい。日常生活が一瞬で奪われる大きな災害の当事者になり、普通の日々のありがたさに改めて気づきました。その夜にもっと大きな揺れに襲われるなど、思いもよらず、皆さん、後片付けや、安否確認をしあっていました。

4月16日(土)深夜1時25分震度7(M7.3)。それは再び突然来ました。ドーンと大きな衝撃の後、振り回されるような大きな揺れが長く続き、周りの荷物が崩れ落ち、停電になりました。思わず叫び声をあげました。真っ暗な中、何度もガタガタ揺すられ、カラーボックスの本棚が倒れ、あたりはブルーレイディスクや本類の山で足の踏み場もありません。何かが落ちて割れる音もしました。

14日の後、娘には懐中電灯を持っているように言っておきながら、自分は持っていませんでした。真っ暗な中、娘も無事な事を確認し、遠い部屋から懐中電灯でこちらを照らしてもらいながら荷物の山を踏み越えて部屋から脱出、娘の部屋を目指しました。途中でケガ予防に風呂場用の履き物を履き、本の上のトンネルをくぐり抜け、カラーボックスを乗り越え、娘に合流する事ができました。緊急地震速報は、ドンと衝撃が来た後にヴィーヴィー騒ぎます。余震が何度も来るので、携帯電話や充電器、懐中電灯などの必要な物や薬、現金などと、寒く、雨の予報もあったので、ダウンの上着や傘もひつつかんで外に避難する事にしました。阪神淡路大震災の教訓でブレーカーを落として出ました。軽くあたたかいダウンジャケットや身体を拭くウェットシートは避難中大変役にたちました。避難が長引くならば、下着の予備が必需品です。東日本大震災から避難していた友人からは、現金が必要だと教えてもらっていました。熊本の人たちは危機管理の意識が不足しているよとも指摘されました。わかったつもりと当事者になるのは、えらい違いです。

震度1以上の余震はすでに1700回を越えています。地下水で上水道をまかなっている熊本市で、水前寺公園の湧き水が干上がるなど信じられない事が現実になっています。阿蘇方面の山崩れ、益城の惨状は、全国でも共有されていると思いますが、雨も多く、地震対応が必ずしも充分ではない熊本の住居はあちこちでダメージを受けています。

学校などの避難所では床の上で寝て食事でも大変だったそうです。高齢者や赤ちゃんや子どもたちも含め、様々な方々に対応する体制を事前に用意する事が大切だと思います。要支援の方々への対応も足りていないようです。阪神淡路や東日本大震災の経験が各避難所で活かされていたとは思えませんでした。

2. ましてや、こんな大きな直下型地震が断続的に起こり、大きな揺れも大分から八代付近まで動きまわっているにも関わらず、川内原発が止まりません。あんな揺れに川内原発が襲われ、制御棒がうまく入らなかったらどうなるのだろう? 鉄塔が倒れて外部電源が止まったら? 老朽原発の配管がどうなるのか恐ろしい!

中央構造線に関わる断層が動いているのに、危機感もないのだろうか?

うちのマンションでも、扉が開かなくなったり閉まらなくなった部屋があり、壁には大きくバツェンの形に鉄筋が見えるほどの傷がいくつも出ています。我が家の食器棚の蝶番は引きちぎられ、ガラス扉が落下していました。余震が怖く、車中泊する方々も多く、屋内退避など出来ない方々がたくさんいました。原発事故の際には「屋内退避」も「避難」もできないのです。原発の避難計画が破綻する事は明白です。

新幹線も脱線、幹線道路もズタズタになった所があります。自動車のない避難者をどうやって逃がしますか？

災害の時は情報を取り入れる手段は限られます。過酷な状況にある人ほど必要な情報を受けることができない現実があります。

今でも被災自治体では職員も被災し、他県からの派遣職員も頑張っておられる状態です。これに加えて川内原発で事故が起きれば、住民を放射能被ばくから守るための対策を熊本の自治体ができるでしょうか。これ以上のリスクを増やすなどあってはなりません。

東日本大震災では、助けを求める声を聞きながら救助を断念せざるをえず、餓死や凍死された被災者が居られましたが、それを九州で繰り返すわけにはいかないのです。

3. そのような中、国内外からたくさんの方々が、直ちに原発を止めましょう！との署名を集めたり、国会などで声を届け続けている事に力を頂いています。熊本も1万人以上の方々が避難しましたが、東日本大震災の避難者は未だ9万人余。今回、熊本から川内原発近くに避難せざるをえなかった友人は、宮城県沖地震、東日本大震災、熊本地震を体験してしまいました。彼女たちに川内原発からの避難まで経験してほしいありません。

九州の食べ物がまだまだ東日本を支える必要もあるでしょうし、農林水産業が熊本、鹿児島、宮崎の中心産業です。熊本県の農林水産関係の損害が今でも1000億円越えだそうです。これを放射性物質による環境汚染で糧を得る場、未来まで破壊するわけにはまいりません。稼働中の川内原発を安全に止め、再稼働を目論む日本中の原発も地震列島の危険性の範疇にあるのだと声をあげ続けてまいります。官邸にも内閣府にも環境省にも薩摩川内市にも鹿児島県にも被災者として電話をしました。同じ避難所で会った与党県議にも直訴しました。が、未だ止まりません。

4. 原発が私たちの日常生活とは共生できないと心底思い知ったのは、チェルノブイリ原発事故です。チェルノブイリでは30年たっても現地の方々に健康被害をもたらしています。保養や医療支援のカンパを毎年しております。事故当時は、私たちの食卓にまで放射能汚染された輸入食品という形で実害の危機をもたらしました。内部被曝のリスクを低減させるために市民は自ら放射線量を計測せざるをえませんでした。

高速増殖炉もんじゅや、六ヶ所の核燃料再処理工場などの核燃料サイクルは、巨額な費用をかけながら、命、環境より、事業の継続と目先の経済が優先されておりますが事故ばかりです。高毒性で過激な振舞いをする物質や死の灰を処理する術も持ちません。すでに破綻しています。玄海原発のプルサーマル開始は、この核燃料サイクルの破綻を認めずごまかしながら、尻拭いを九州の住民に押し付けたものです。

これらの問題に関わる中、現地の方々の安全や生活への影響を、チェルノブイリや福島第一原発に学ばぬ電力会社や行政府や監督官庁の姿勢に暗澹たる思いです。

福島第一原発の事故では専門家による想定や指摘も無視されました。もう、想定外ではすまされないのです。地震の活動期に入り、巨大地震がいつどこで起きてもおかしくない状況で川内原発の稼働を一瞬たりとも止めずに運転を続ける九州電力の姿勢は許されるものではありません。また、規制を見直す時を逸し、取り返しのつかない事故を起こすような事態を防ぐ義務が規制委員会にあると思います。

何より、地震や火山活動を止める事は不可能ですが、原発は運転を止め、リスクを小さくする事が可能です。何も起こらないうちに安全に止めなければなりません。責任をとる事ができない事態はたった5年前の我が国の東北と30年前のチェルノブイリで現実となりいまだに続いている事を忘れてはなりません。

熊本地震の夜、川内原発には15人しか居なかったそうです。地震と原発の異常に対処できたでしょうか？夜中に事故は起きないというのでしょうか？福島第一では何千人が被曝を覚悟で毎日終息に向け作業し続けています。予防しかありません。

九州では4年近く日本中もほぼ2年、川内原発が再稼働するまで原発なしで暮らしておりました。原発が作る熱の3分の2は、海水を温め、海洋生態系を破壊しています。

すべての命を守るために、原発はもういりません。

即停止の裁定を心からお願い申し上げます。

以上